

兄弟と相高^(※1)高普第5回卒 原田 富夫^(※2)

1 私の出身は鹿島で、家は衣料店をやっていました。子沢山の時代に、私の妹が早世した事も加え、兄弟は男ばかりの7人でした。昭和2年生まれの長男は家業を継ぐため原町商業を卒業しましたが、下の兄弟は全員相高に入学しています。三男の私が28年卒で末っ子に至っては41年卒です。

さて、相高を卒業していない長男の話ですが、兄は文系に才能があったため筑波大学の前身の文理大を卒業していました。「お兄さんは先生になりませんか」と同校卒の先生から私に話があったが兄が先生では嫌なので兄に話しませんでした。私と入れ違いに入った弟が兄に話した結果相高の夜間部の先生となりました。兄弟でただ一人相高に入っていないその兄^(※3)が昭和28年から48年まで相高の教員として在職し、32年から44年まで野球部の部長なども兼任している訳ですから、全員相高関係者でしょうか。

国民学校1年生の歌と共に鹿島国民学校に入学し、又も戦後の学制改革で新制中学の1年に入学しました。更に私達は1年先輩の現会長さん^(※4)などが母校に6年通学したのに対し、半分の3年しか通学していません。時移り昨年茨城支部の前支部長などの要請で私が支部長となりましたが、19年版の同窓会名簿を見て愕然としました。やはり1年先輩の壁があったのです。しかし、昨日の支部総会の席上で「新妻・荒両君が支部長だよ」と話されて安心して居ます。小さな支部ですが、菅野さんの全面協力の下でがんばります。

2. 先生の思い出

- (1) 庄司^(※5)先生だったと思いますが、ある日の授業で、戦争中の機銃関係の仕事に携わったが『打ち出された玉がプロペラに当たらない様になっている』と話された。当時はゼロ戦以外に思い浮かばない私から考えれば、それこそ高速で回転するプロペラの間を銃弾が通っても万に一つの間違いも無いと聞いて、私は信じ難い気持ちで一杯でした。
- (2) 佐藤義雄^(※6)先生の授業が終りに近付いた頃、先生から『近代化学史について記せ』と紙を渡され、教科書を見ても良いと言われた。程度が高すぎるとか教科書を見るに多少抵抗があったが、とにかく書くことにして教科書を飛ばし読みしたものの初めての経験で上手く書けない。当時は『原爆が広島などに落とされた』ものの質量不変の定理が幅を利かせる一方有機化学が全盛期を迎え、また原子量表も殆ど埋め尽くされるなど未来の科学には光明が見られたが、私は教科書に書かれた過去の化学史を一生懸命書きました。
- (3) タッペ先生の最後の授業で、先生が、私の息子が今度相高に入ることになるが『タッペの子』と言わないでくれと真面目な顔で話した。
私は何秒か経って話の重要性を確認したが、周囲の生徒も同じ様だった。

3. 相馬の殿様と奥様

殿様の末裔の相馬恵胤^(※7)氏のMRA主体の講演を講堂で2回は聞いたと思う。その後『麝香奥様』が馬城会京浜支部総会で講演したのを京浜支部員でもある私が聞いて奥さんが健在である事を知った。その後新聞で奥さんが尾崎行雄記念財団に居る事を知ったので、JR有楽町駅から憲政会館まで歩き、奥さんの開会の辞に始まり宮城県知事経験者などの数人の討論を聞いて家に帰った。奥さんを知る人は当然多いと思いますが、同所で購入した図書などから何点かをここに書きます。

- (1) 尾崎行雄（衆議院議員・憲政の父と呼ばれ、大臣や東京市長など歴任）の次女として生れ恵胤氏と結婚。
- (2) 国際MRA日本協会名誉会長・尾崎行雄記念財団副会長・難民を助ける会会長などの役職を持ち、本の紹介では『平和活動家』となっています。

(※1) 創立110周年記念誌『紅の旗』（2009(平成21)年1月発行）の「思い出の記」〈ああ、我らが青春の日々よ〉より。

(※2) 昭和28（1953）年卒、鹿島出身。

(※3) 原田幸蔵先生。昭和28～48年・相高教諭：日本史。昭和32～44年・相高野球部（部長・監督）。昭和32年夏の県大会準優勝、甲子園をかけて東北大会（当時は、福島・宮城・山形3県から1校のみ甲子園へ）に出場も敗退

(※4) 寺島泰三氏。相高普第4回、昭和27（1952）年卒。福田出身。第9代馬城会長。元統合幕僚会議議長。

馬城かわら版 第127号「相馬中学・高校の思い出」「創立百年及び校歌制定百周年記念式典 ご挨拶」

(※5) 庄司國男。昭和21～32年・相高教諭：理科/数学。相中第32回、昭和9（1934）年卒。中村出身。

(※6) 昭和21～36年・相高教諭：化学。

(※7) そうま やすたね 1913～1994。相馬子爵家32代当主。相馬市に二の丸球場や長友グラウンドなどを寄贈。相馬市名誉市民。

（ウィキペディアより）

（転記&※脚注 村山）